

高田区地域協議会が（仮称）厚生産業会館の基本構想案に反対 「時期尚早、いま建設するのはいかがか」の声が圧倒的多数

2012年（平成24年）10月2日午後9時38分。新潟県上越市の地域協議会史上、画期的な判断が高田区地域協議会（西山要耕会長）によって下されました。高田公園内に（仮称）厚生産業会館を設置する基本構想（案）について市長の諮問に反対と答申することにしたので、2回にわたる慎重審議をしたうえで、採決した結果、反対は13人、賛成2人と反対が圧倒的でした。

この日、高田区地域協議会は午後6時に開会し、「（仮称）厚生産業会館の基本構想（案）について」の諮問については3時間半以上にわたる審議を行いました。都市整備課、公民館、



基本構想案反対が決まった瞬間。2日、高田地区公民館にて橋爪が撮影

子ども課等の説明に対する質疑が行われた後の意見集約では、全委員が発言し、この問題について思いを語りましたが、いまの時点での建設は時期尚早だという声がほとんどでした。私のメモをもとに主な発言を紹介します。

●子ども施設はお粗末に感じた。なぜ造るべきかの必要性、原点が欠けている。

●プール跡地ありきで進んでいることに抵抗感を感じた。この街に住むことに誇りを持って、どういふ街をつくっていったらいいか考えなければならぬ。新幹線の乗客が降りる街は文化のある街だ。文化のない街に人は降りない。こういう時代だからこそ郊外化の波を食い止めなければならぬ。最初からここにするという前提のものは敬遠すべきだ。

●いまは造る必要がない。もっと財政的な余裕がある時に造るべきだ。中身的にも目的に合った場所、施設になっていない。時期尚早だ。

●造ることの意味、疑問だ。片方で将来的に80億の赤字になると言いながら、地域事業費制度を見直し、高田地区には新幹線の駅もでき、（仮称）厚生産業会館もつくるといふのは13区に不満がある。高田地区の住民としてはほしいけれども、本当に市民がほしがっているか煮詰める必要がある。

●中心市街地は通るたびにさびれていく感じだ。車で行ける場所はたくさんある。もう少し時間をかけて決めるべきで、時期尚早だ。財政もそんなに楽じゃない。

（仮称）厚生産業会館の建設は市長の選挙公約のひとつでした。しかし、市民の中には財政事情の厳しい中、いまの時点でこの施設を建設する必要があるかどうか、市民の声を十分聴くべ

く動かす一歩となることでしょう。同協議会では、近いうちに今晩出された反対理由を整理し、市長に答申を提出するということです。

昨年度一般会計決算認定等に反対

日本共産党議員団

9月定例議会が9月27日終了しました。日本共産党議員団の平良木議員が昨年度の一般会計決算認定、国保会計決算、今年度一般会計補正予算などで反対討論しました。

このうち昨年度の一般会計歳入歳出決算については、反対の最大理由は、合併時の約束事であった地域事業費制度の見直しを行い、枠の撤廃をしたことです。地域事業の進捗管理をキチンとやらなかった事実も責任もあいまいにしたまま決算をすることは許されない、ということです。

（仮称）厚生産業会館に関しては昨年度、市は整備基礎資料の作成を外部に委託し、この事業を大きく進めました。私たちは繰り返し、「建設の可否を含めて市民の意見をもっと聴くべきだ」と主張してきましたが、それは軽視されてきました。これも反対理由の一つにしました。



【ウメバチソウ】ユキノシタ科の多年草。漢字で「梅鉢草」と書きます。正に野に咲く梅といった感じ。湿度があって、日当たりもいいところに咲きます。高山植物の一つで、市内では標高500メートルくらいにならないと見ることができません。

久しぶりに母の通院の送迎をしました。通院と言っても、年に一、二回行っている頭の中の断層写真撮影です。父が旅立ってまもなく発見された四ミリほどの動脈のこぶが大きくならないかどうかを調べてもらっています。

わが家から母が通う病院までは車で約三〇分かかります。息子と一緒に車に乗って二人きりになるのがうれしかったのでしようか、母のキョウダイのこと、私が幼かったころのことなど次々と語ってくれました。

この日、母の話には、私の知らないことがいくつも出てきました。一番驚いたのは、母の下には狭山や千葉の叔父の他にもう一人弟ができるはずだったという話です。母の母親は、この「もう一人の弟」の出産時に出血の量が多かったことが原因でこの子とともに亡くなったということです。初めて知りました。

母親が亡くなった時、母はまだ幼く、自分がいくつの時に亡くなったかを憶えていないといえます。それでいながら、葬儀の時、当時、やはり幼かった千葉の叔父のことを憶えているのですから不思議です。叔父は、葬儀の時、人が大勢集まったのでうれしかったらしい。雁木の柱につかまって無邪気に遊んでいたことなど細かいことまで記憶していました。

まだ幼い子どもたちを残して母親が亡くなり、母親の代わりをしたのは母の祖母です。この人は大島区竹平の内山医院から母の実家、「のうの」に嫁ぎ、母のキョウダイを育てたといえます。母は、「正月には『つっぽ』を作ってくれて、着してもらった。そのばちやがいっせき、おらを育ててくれたがだ」と思っていました。

東京大空襲で亡くなったアヤノ伯母については十数年前に母から初めて聴きました。この日は世田谷のS家で女中奉公をしていたアヤノ伯母がSさんの家族と共に四年間、シンガポールに行ったことや行方不明となったアヤノ伯母を嫁ぎ先の家族が探し続けたことなどを詳しく教えてくれました。

戦争で食糧難の時代だったこともあって、当時のことのうち、食べ物については特別によく憶えているようです。母はおもしろい話をしてくれました。アヤノ伯母がシンガポールから帰ってきた時のお土産はシカの角の飾りと大きな茶筒に入ったザラメだったといのです。

「砂糖なんてなかったすけ、煮て食うがよりもなめる方がいっぺだつた」
 そういふ母の言葉からは、母のキョウダイたちが「のうの」の家でザラメをなめている様子が目に浮かびました。

土産に食べ物ももらったという話は千葉の叔父の話でも出てきました。叔父は国鉄に勤める前は造船所に勤めていて、実家に帰る時は必ず土産を持参したといえます。「千葉はいつも、うんめもん買って来てくれるので、みんな待っていたもんだ。持ってきたのはニシンの干したもんに砂糖をつけたものだ。ゴマもついていた」

と母は言いました。叔父が土産に買ってきたものというのはミリン干しです。母の語る昔話は次々と広がりました。

この日の検査と診察はわずか一時間ほどで終わりました。母の言う「エマル」（MRI、頭の中の断層撮影のこと）の結果、動脈のこぶの大きさは前回検査と変わらずでした。お医者さんはニコニコ顔で、次回の検査日を提案されました。次回は何と来年の一〇月一日、午前九時二〇分からです。これならまだ長生きできるでしょう。

「ドッジボールでどンドン倒される感じた」など批判相次ぐ

柿崎区地域協議会が総合事務所の見直し問題審議

柿崎区地域協議会（佐藤健会長）が9月28日開催され、総合事務所の見直し問題などが審議されました。池田総合事務所長が説明し、その後、委員から意見が出されました。

委員からは、「市民感覚からすると、いずれ総合事務所がなくなると感じる」「市長は市民とキャッチボールというが、実際はドッジボールでどンドン倒されていく感じがする。地域を知らない職員がいる中で、（産業建設グループが）機動的に動けるのか疑問だ。非常に不安だ」「職員数削減ありきになっているのではないか。総合事務所が機能するのか。市民はますます遠のく」「大変な財政状況の中で産業建設グループだけを集約しても意味はない。かえって困ることが多くなるのではないか」「合併の時も町内会長

の負担は増えないということだったが、増えた。今回も町内会長の負担増にならないのか、市民のみなさんの迷惑にならないのか検証してほしい」などの声が出されていました。

次回は木田庁舎から人事課長などが出席し、この問題の審議を続けることになっています。



写真は昨年7月末の水害でやられ、復旧した大島区の田んぼです。今年の出来はまいちだったようですが、ちゃんと収穫できました。9月28日、撮影。



柿崎区地域協議会。28日、橋爪撮影。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

| | 9月26日（水） | 10月3日（水） |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.030 | 0.046 |
| 上越北消防署 | 0.050 | 0.043 |
| 新井消防署 | 0.057 | 0.050 |
| 頸北消防署 | 0.040 | 0.040 |
| 頸南消防署 | 0.047 | 0.040 |
| 東頸消防署 | 0.043 | 0.047 |
| 高士分遣所 | 0.043 | 0.050 |
| 名立分遣所 | 0.040 | 0.043 |

春よ来い 第二十二回 母が語る昔のこと

久しぶりに母の通院の送迎をしました。通院と言っても、年に一、二回行っている頭の中の断層写真撮影です。父が旅立ってまもなく発見された四ミリほどの動脈のこぶが大きくならないかどうかを調べてもらっています。

わが家から母が通う病院までは車で約三〇分かかります。息子と一緒に車に乗って二人きりになるのがうれしかったのでしようか、母のキョウダイのこと、私が幼かったころのことなど次々と語ってくれました。

この日、母の話には、私の知らないことがいくつも出てきました。一番驚いたのは、母の下には狭山や千葉の叔父の他にもう一人弟ができるはずだったという話です。母の母親は、この「もう一人の弟」の出産時に出血の量が多かったことが原因でこの子とともに亡くなったということです。初めて知りました。

母親が亡くなった時、母はまだ幼く、自分がいくつの時に亡くなったかを憶えていないといえます。それでいながら、葬儀の時、当時、やはり幼かった千葉の叔父のことを憶えているのですから不思議です。叔父は、葬儀の時、人が大勢集まったのでうれしかったらしい。雁木の柱につかまって無邪気に遊んでいたことなど細かいことまで記憶していました。

まだ幼い子どもたちを残して母親が亡くなり、母親の代わりをしたのは母の祖母です。この人は大島区竹平の内山医院から母の実家、「のうの」に嫁ぎ、母のキョウダイを育てたといえます。母は、「正月には『つっぽ』を作ってくれて、着してもらった。そのばちやがいっせき、おらを育ててくれたがだ」と思っていたいました。

東京大空襲で亡くなったアヤノ伯母については十数年前に母から初めて聴きました。この日は世田谷のS家で女中奉公をしていたアヤノ伯母がSさんの家族と共に四年間、シンガポールに行ったことや行方不明となったアヤノ伯母を嫁ぎ先の家族が探し続けたことなどを詳しく教えてくれました。

戦争で食糧難の時代だったこともあって、当時のことのうち、食べ物については特別によく憶えているようです。母はおもしろい話をしてくれました。アヤノ伯母がシンガポールから帰ってきた時のお土産はシカの角の飾りと大きな茶筒に入ったザラメだったということです。

「砂糖なんてなかったすけ、煮て食うがよりもなめる方がいっぺだつた」
 そういふ母の言葉からは、母のキョウダイたちが「のうの」の家でザラメをなめている様子が目に浮かびました。

土産に食べ物ももらったという話は千葉の叔父の話でも出てきました。叔父は国鉄に勤める前は造船所に勤めていて、実家に帰る時は必ず土産を持参したといえます。「千葉はいつも、うんめもん買って来てくれるので、みんな待っていたもんだ。持ってきたのはニシンの干したもんに砂糖をつけたものだ。ゴマもつけていた」

と母は言いました。叔父が土産に買ってきたものというのはミリン干しです。母の語る昔話は次々と広がりました。

この日の検査と診察はわずか一時間ほどで終わりました。母の言う「エマル」（MRI、頭の中の断層撮影のこと）の結果、動脈のこぶの大きさは前回検査と変わらずでした。お医者さんはニコニコ顔で、次回の検査日を提案されました。次回は何と来年の一〇月一日、午前九時二〇分からです。これならまだ長生きできるでしょう。

何も抵抗しないで決まってしまうのでは納得できない

板倉区地域協議会が総合事務所の見直し問題審議

9月28日に開催された板倉区地域協議会（丸山公星会長）を傍聴してきました。

一番関心があったのは総合事務所の産業建設グループ集約問題です。これまで市が示した参考案では、中郷区、板倉区、清里区、牧区、三和区の5つの区の産業建設グループを一か所に集約するという事になっています。面積も広いし、区の数も一番多いのでどういう声が出るのか注目しました。

総合事務所の矢沢所長から説明があった後、委員から意見が次々と出ました。

委員からは、「市が案を発表したら終わりだ。発表する前に地元の声をまとめるべきだ」「地元議員から力を発揮してもらい市に申し入れてもらいたい」「何も抵抗しないで決まってしまうのでは納得

できない」など様々な意見が出ていました。

同地域協議会では、近く、委員の声をまとめて、市長に意見書を提出することにしました。

なお、市長から諮問のあった板倉郷土資料館の廃止については、この日の協議会で「維持管理をキチンとすること」という付帯をつけて同意することに決定しました。



写真は昨年7月末の水害でやられ、復旧した大島区の田んぼ。今年の出来はまいちだったようですが、ちゃんと収穫できました。9月28日、撮影。



板倉区地域協議会。28日、橋爪撮影。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

| | 9月26日（水） | 10月3日（水） |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.030 | 0.046 |
| 上越北消防署 | 0.050 | 0.043 |
| 新井消防署 | 0.057 | 0.050 |
| 頸北消防署 | 0.040 | 0.040 |
| 頸南消防署 | 0.047 | 0.040 |
| 東頸消防署 | 0.043 | 0.047 |
| 高士分遣所 | 0.043 | 0.050 |
| 名立分遣所 | 0.040 | 0.043 |

春よ来い 第二十二回 母が語る昔のこと

久しぶりに母の通院の送迎をしました。通院と言っても、年に一、二回行っている頭の中の断層写真撮影です。父が旅立ってまもなく発見された四ミリほどの動脈のこぶが大きくならないかどうかを調べてもらっています。

わが家から母が通う病院までは車で約三〇分かかります。息子と一緒に車に乗って二人きりになるのがうれしかったのでしようか、母のキョウダイのこと、私が幼かったころのことなど次々と語ってくれました。

この日、母の話には、私の知らないことがいくつも出てきました。一番驚いたのは、母の下には狭山や千葉の叔父の他にもう一人弟ができるはずだったという話です。母の母親は、この「もう一人の弟」の出産時に出血の量が多かったことが原因でこの子とともに亡くなったということです。初めて知りました。

母親が亡くなった時、母はまだ幼く、自分がいくつの時に亡くなったかを憶えていないといえます。それでいながら、葬儀の時、当時、やはり幼かった千葉の叔父のことを憶えているのですから不思議です。叔父は、葬儀の時、人が大勢集まったのでうれしかったらしい。雁木の柱につかまって無邪気に遊んでいたことなど細かいことまで記憶していました。

まだ幼い子どもたちを残して母親が亡くなり、母親の代わりをしたのは母の祖母です。この人は大島区竹平の内山医院から母の実家、「のうの」に嫁ぎ、母のキョウダイを育てたといえます。母は、「正月には『つっぽ』を作ってくれて、着してもらった。そのばちやがいっせき、おらを育ててくれたがだ」と思っていたいました。

東京大空襲で亡くなったアヤノ伯母については十数年前に母から初めて聴きました。この日は世田谷のS家で女中奉公をしていたアヤノ伯母がSさんの家族と共に四年間、シンガポールに行ったことや行方不明となったアヤノ伯母を嫁ぎ先の家族が探し続けたことなどを詳しく教えてくれました。

戦争で食糧難の時代だったこともあって、当時のことのうち、食べ物については特別によく憶えているようです。母はおもしろい話をしてくれました。アヤノ伯母がシンガポールから帰ってきた時のお土産はシカの角の飾りと大きな茶筒に入ったザラメだったといのです。

「砂糖なんてなかったすけ、煮て食うがよりもなめる方がいっぺだつた」
 そういふ母の言葉からは、母のキョウダイたちが「のうの」の家でザラメをなめている様子が目に浮かびました。

土産に食べ物をもたらしたという話は千葉の叔父の話でも出てきました。叔父は国鉄に勤める前は造船所に勤めていて、実家に帰る時は必ず土産を持参したといえます。「千葉はいつも、うんめもん買って来てくれるので、みんな待っていたもんだ。持ってきたのはニシンの干したもんに砂糖をつけたものだ。ゴマもついていた」

と母は言いました。叔父が土産に買ってきたものというのはミリン干しです。母の語る昔話は次々と広がりました。

この日の検査と診察はわずか一時間ほどで終わりました。母の言う「エマル」（MRI、頭の中の断層撮影のこと）の結果、動脈のこぶの大きさは前回検査と変わらずでした。お医者さんはニコニコ顔で、次回の検査日を提案されました。次回は何と来年の一〇月一日、午前九時二〇分からです。これならまだ長生きできるでしょう。

「ドッジボールでどんどん倒される感じた」など批判相次ぐ

柿崎区地域協議会が総合事務所の見直し問題審議

柿崎区地域協議会（佐藤健会長）が9月28日開催され、総合事務所の見直し問題などが審議されました。池田総合事務所長が説明し、その後、委員から意見が出されました。

委員からは、「市民感覚からすると、いずれ総合事務所がなくなると感じる」「市長は市民とキャッチボールというが、実際はドッジボールでどんどん倒されていく感じがする。地域を知らない職員がいる中で、（産業建設グループが）機動的に動けるのか疑問だ。非常に不安だ」「職員数削減ありきになっているのではないか。総合事務所が機能するのか。市民はますます遠のく」「大変な財政状況の中で産業建設グループだけを集約しても意味はない。かえって困ることが多くなるのではないか」「合併の時も町内会長

の負担は増えないということだったが、増えた。今回も町内会長の負担増にならないのか、市民のみなさんの迷惑にならないのか検証してほしい」などの声が出されていました。

次回は木田庁舎から人事課長などが出席し、この問題の審議を続けることになっています。



瓢箪（ひょうたん）の実を取り出し、干す作業が始まっています。写真は中身を取り出す前のもの、並んでいる姿がかわいく撮りました。（吉川区小苗代にて9月28日撮影）



柿崎区地域協議会。28日、橋爪撮影。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

| | 9月26日（水） | 10月3日（水） |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.030 | 0.046 |
| 上越北消防署 | 0.050 | 0.043 |
| 新井消防署 | 0.057 | 0.050 |
| 頸北消防署 | 0.040 | 0.040 |
| 頸南消防署 | 0.047 | 0.040 |
| 東頸消防署 | 0.043 | 0.047 |
| 高士分遣所 | 0.043 | 0.050 |
| 名立分遣所 | 0.040 | 0.043 |